

日本のドメインは高すぎる！

～インターネットが拓く自由で平等な世界のために～

ADSL 戦国時代

2002年も残すところあと数日となりました。この1年を振り返ってみたいと思います。

インターネット業界最大のトピックは、ADSLの普及です。顧客増大に伴い、プロバイダー各社の競争も激化した1年でした。当社は、固定IPアドレス、という他社にはないサービスをしているため、価格競争はしませんでした。しかしながら、ダмпिंगとしか言えないような価格には当社の入会数が少なからず影響を受けました。

特に10月からはじまった、Yahoo!BBの街頭でのADSLモデム配布、最大2ヶ月無料キャンペーンには、はじめた当初影響を受けましたが、当社にはYahoo!で出来ない自宅サーバーや固定IPができますので、大きな影響にはなりませんでした。

頑張れ、総務省！

道路公団民営化議論の中で、役人の天下りや、役人の公僕としてのあり方が問われました。同じ「役所」でも総務省はとても良くやっていると私は思います。日本のADSL料金は世界最安値となりましたが、これはプロバイダー間の過当競争もありましたが、総務省の頑張りも非常に大きいものだったと思います。

特にNTTが独占してきた分野についての規制緩和を大胆に国民のためにやってくれていると思うのです。

日本のドメインは高すぎる！

ADSL料金が世界最安値になりましたが、ドメイン料金は米国の3倍です。当社で提供している、ゴンベエージェンシーでも、.comドメインが年額2,520円に対して、.jpドメインは年額4,770円です。実際には当社の利益はほぼ同じで、仕入れ値が3倍違うのです。

このドメイン販売は、株式会社日本レジストリサービスという会社が独占的に販売しています。

(株)日本レジストリサービスが独占販売に至るまで

(株)日本レジストリサービスがドメイン独占販売をするまでは、社団法人日本ネットワークインフォメーションセンターが、取り扱っていました。当社も、JPNICの会員になり、取り扱っていました。

2000年に、JPNICより、株式会社を設立して、そこに取り扱わせたい。社団法人は利益をあげては行けないため、株式会社にして利益を留保したい、という連絡が来ました。総会で決議するとのことでした。

わかりやすく言うと、もうかる仕事なので、株式会社にやらせたいということです。私企業であれば、利益があがっても、かまわない。JPNICの関係者でその利益をもらいたい、というふうに私には思いました。

同様の考えを持ったJPNIC会員も多く、JPNIC総会で一度は流れたのです。JPNIC村井理事長の懸命の説得工作でなんとか総会の委任状を集めて、設立されました。

儲からない公団、儲かる子会社
道路公団と同じではないか？

IT業界は、競争が激しく、各社凌ぎを削っています。いかにコストを下げ、新しい技術を取り入れて、いかに安く顧客に提供するか、日々、このことを考えています。

ドメインというのは、単なる使用权のようなものです。ドメインを取得したら額に入った、ドメイン名がもらえるということはありませんし、銀行のように立派な通帳やキャッシュカードをもらえるわけでもありません。経費がほとんどかからないのです。

(株)日本レジストリサービスは儲けすぎです。インターネット利用者に利益を還元するべきです。

独占販売をして、しかも高額であるというのは、ユーザーに対する、そしてインターネット全体に対する背信行為ではないでしょうか。

IT業界は、既存業界のような構造を作らないようにしよう。

ADSL料金が何故下がったかと言えば、独占企業NTTの独占を総務省がやめさせたため、プロバイダーは自由に価格を決めることができたのです。その結果、自由競争の中で価格が下がりました。

ドメイン料金は、独占企業が明らかに高すぎる料金を設定しています。

インターネットが拓く世界は、自由で平等な世界であるべきです。

一部の人が利益を享受する世界であってはなりません。